

平成29年度第1回 平塚市環境審議会の概要【確認用】

日 時 平成29年6月23日(金) 14時30分から16時45分まで

場 所 市庁舎本館7階 710会議室

出席者 木村委員、小林(久)委員、坂井委員、鳥海委員、秋山委員、小林(勤)委員、
柳川委員、柳田委員、田中委員、小出委員、村上委員、室田委員、堀委員、
池貝委員

〈事務局〉環境部長、環境政策課長ほか

議 題

- (1) 会長及び副会長の選出
- (2) 平塚市環境審議会及び本市における環境施策等の概要について
- (3) 平塚市環境基本計画関連事業の平成28年度実施状況について

会議の概要

1 開会

2 委嘱式

3 委員自己紹介

4 議題

(1) 会長及び副会長の選出

◇事務局

会長、副会長の選出について、どなたか推薦はあるか。

○委員

事務局からの案はあるのか。

◇事務局

前期の環境審議会では、東海大学の先生に会長、神奈川大学の先生に副会長に就任いただき、熱心に審議会の運営に努めていただいた。今期も学識経験者の先生にお願いしてはどうか。

○委員

—拍手—

◇事務局

異議がないようなので、会長は東海大学の室田委員に、副会長は神奈川大学の堀委員にお願いする

(2) 平塚市環境審議会及び本市における環境施策等の概要について

○会長

議題(2) 平塚市環境審議会及び本市における環境施策等の概要について、事務局から説明を。

◇事務局

「資料1-1 平塚市環境審議会の概要」、「資料1-2 平塚市環境基本計画（改訂版）の概要」、「資料1-3 平塚市地球温暖化対策実行計画の概要」、「資料1-4 平塚市環境基本計画の概要（平成29年度～平成38年度）」により説明。

○会長

今の事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○委員

今年度の審議会の大きな日程について決まっていれば、教えて欲しい。

◇事務局

第2回審議会を11月上旬頃、第3回審議会を1月下旬から2月上旬頃に開催する予定である。

○委員

温室効果ガスの削減目標は、過年度の実績を踏まえた目標値となっているのか。

◇事務局

平塚市環境基本計画（平成29年度～38年度）の温室効果ガスの削減目標は、平成25（2013）年度を基準年にして、目標値を立てている。これは、国の目標が平成42（2030）年度に温室効果ガスを平成25（2013）年度比で26%削減と定めていることから、基準年を国に合わせている。ただし、本市の場合は、環境基本計画に併せて地球温暖化対策実行計画も10年後を目標の達成年度としているため、国の計画と達成年度が相違している。達成年度が相違している分、目標としている削減目標の数値も国とは違っている。

○委員

企業はアウトプットするものがある。ある一定の量のアウトプットに対して電気をどれくらい使用したかという様な原単位という考え方をして、電力の使用量の削減目標を設定している。市も産業の発展や市民の増減などによって、電力の使用量が変わってくる。その様な、原単位の考え方についてはどう考えているのか。

◇事務局

地球温暖化対策の推進に関する法律の規定によるところもあるが、市域全体の温室効果ガスを推計するにあたっては、原単位という考え方は導入していない。人口が減少していけば、その分温室効果ガスも減少していくので、平塚市環境基本計画（平成29年度～38年度）は、人口がどの様に推移していくかというようなことも検討し、分析を行ったが、温室効果ガスの削減目標については、国の目標に沿って温室効果ガスの目標値を設定している。原単位の考え方は、温室効果ガスの削減目標には入っていない。

○会長

原単位とは何か。

○委員

生産のアウトプット、例えば製品を300t製造し、電力をどの位使用したか調べると、300t製造するにはどれ位の電力量を使用するのかというある程度の指数がでる。その翌年度、電力使用量は変わらなかったが、製造が250tとなったとなれば、原単位あたりの電気使用量は削減されていないという考え方になる。

○会長

費用対効果と同じ様な考え方か。

○委員

そのとおりである。

◇事務局

平塚市に例えると、今後10年間で人口が倍になったとすると、家庭が使用する電力量も倍になってもおかしくはないが、現実的にはそのようなことにならず、平塚市の人口は横ばいか少し減少傾向にあり、今後、人口減少社会になっていけば、温室効果ガスも勝手に下がっていくことも想定される。その様な考え方を原単位当たりの温室効果ガスの予想では導き出すことができる。国の目標は、社会情勢なども踏まえて設定されているので、平塚市としては国の目標を参考にし、温室効果ガスの削減目標を設定した。

○委員

平塚市環境基本計画(平成29年度～38年度)の目指すべき環境像が「地球にやさしい、自然にやさし、人にやさしいまち ひらつか」との説明があったが、今回、説明を受けるまでその言葉を承知していなかった。市民にどの様に目指すべき環境像の様な環境基本計画のビジョンを伝える予定なのか。特に6月は全国的に環境月間となっているが、広報ひらつかにも環境基本計画のビジョンの掲載は無かったと思う。環境基本計画のビジョンをどの様に市民に伝え、共有できる方策を行う予定なのか。

◇事務局

平塚市環境基本計画(平成29年度～38年度)の周知については、昨年度の審議会でも大きな議論となった。環境基本計画自体は分厚い冊子にまとめられているため、計画を策定しただけでは、あまり市民の目に触れる機会はない。環境基本計画を策定したのであれば、計画に規定している環境配慮行動や、目指しているものを市民にいかに伝えていくかが課題である。環境基本計画の中で市民に実践してもらいたい事例を分かり易くまとめたチラシの様なものを作成し、イベントなどを通じて配布する予定である。

市民にどの様に環境基本計画のビジョンを伝えていくかは大きなテーマとなっているので、審議会委員からのご意見をいただきながら、進めていきたい。

○委員

1つの手法として、環境基本計画の様な大きなビジョンに対して、実生活の中で市民が行っている好事例を行政は色々と把握していると思う。そのような事例を他の市民に伝えて、努力をしている人を参考にして、次に努力をしようとする市民を増やす方策を検討してほしい。

◇事務局

市民の中には環境に関心を持って取り組んでいる市民も非常に多いと思う、その様な輪が市域全体に広がる様に努めていきたい。

○委員

平塚市ホームページのトップページにスローガンを掲載するべきなのではないのか。

◇事務局

平塚市ホームページの環境基本計画のウェブページには掲載されているが、トップページには掲載されていない。トップページに掲載できれば、PR力はあると思う。

○委員

自分は、何十年も平塚に住んでいるが、6年前までは、ずっと東京と平塚の往復をしていた。朝の5時代に起きて、6時代の始発に乗って出勤し、帰りは10時頃に帰ってくるというサラリーマンは多いと思う。平塚市ホームページに掲載されているとか配られる平塚市広報を見て欲しいと言われても、定年をしてから見だしたくらいである。情報の受け手はその様なレベルであるということを理解したうえで、理解を深めてもらうアプローチをしていく必要があると思う。昨年度以前から実践されているとは思いますが、是非お願いしたい。一方、平塚で思いっきり火を焚いて事業を行い、従業員は他に帰ってしまうような企業もある。広報をする相手を幾つかに分けて、それぞれ広報の仕方を変えれば、即効性のある効果が生まれると思う。

◇事務局

確かに指摘を受けている様に環境基本計画を始めとした環境政策課で取り組んでいる事業をどの様な形で市民の方に知ってもらうかは、非常に大きなテーマだと思う。環境基本計画を改定するにあたって、改定段階から知ってもらう一つの方策として、平塚地区環境対策協議会を通じて、改定段階の素案や改定された計画を説明するなど、企業には集まりを通じて、説明してきている。市民については、対象範囲が多いため、一つの方策として、改定にあたって、パブリックコメントを行い、広く市民の方から意見を募集した。策定された環境基本計画を、例えば、広報紙などで大々的に取り上げ、お知らせすることは上手く出来ていない。平塚市としても環境だけではなく、福祉など様々な事業を行っており、広報紙の誌面も限られている。環境の部署としては、市のあらゆる広報紙やホームページの上段に環境基本計画のビジョン等を掲載することが望ましいと思うが、平塚市の様々な施策の中の調整で難しい。これからも、7月に開催される環境フェアなどのイベントなどを通じて、環境基本計画や今年度新たに始めるクールチョイス等の事業をできるだけ市民の方に伝えていきたい。

(3) 平塚市環境基本計画関連事業の平成28年度実施状況について

○会長

議題(3)「平塚市環境基本計画関連事業の平成28年度実施状況」について事務局から説明を。

◇事務局

「資料2 進捗状況点検結果の評価基準等について」、「資料3 平塚市環境基本計画(改訂版)進捗状況報告書」、「資料4 平塚市環境基本計画平成28年度施策の項目の評価について」により説明。

○会長

今の事務局からの説明についてご意見、ご質問があれば。

○委員

資料3「進捗状況報告書(平成29年6月)」と資料4「平塚市環境基本計画平成28年度施策の項目の評価の一覧表」の関係性について質問したい。資料3は正式に製本化などされて一般に公表されるものだと思うが、資料4についてはどうなのか。

◇事務局

資料4についても平塚市のウェブページに審議会終了後に掲載する資料となっている。

○委員

資料4の「施策の柱「環境市民」の取組や連携を支援します」を確認すると、具体的な取組内容は「○」だが重点施策の目標が「×」となっており、ここが一番分かり難いように思える。通常は重点施策の目標を達成するための対策が具体的な取組内容という関係になっていると思うが、具体的な取組が「○」なのに、重点施策が「×」なのは、違和感を覚える。そのような評価となった理由は、資料4の「施策の項目の評価説明」を確認すると分かるが、資料3にはその説明が記載されていないため、施策の項目の評価の理由が分かる様な書き方に資料3を書き直した方が良いと思う。

◇事務局

昨年度の審議会においても、重点施策の具体的な取組内容が「○」になっているにも関わらず、重点施策の目標が「×」となっており、重点施策の具体的な取組と目標が上手くリンクされておらず、施策全体としての評価はどうかという意見があった。そのような意見もあったことから、昨年度に資料4のような様式の資料を作成し、施策の項目についての評価をすることとした。平成29年度から新しい計画となり、その実施状況の評価方法について審議会で検討してもらうので、評価について分かり易い資料を作成していきたい。

○委員

今年度については、とりあえず資料3と資料4を併せて公表した方が分かり易いと思う。

平塚市環境共生型企业懇話会だが、平塚市環境基本計画(平成29年度～38年度)には記載されているのか。

◇事務局

記載している。

○委員

平塚地区環境対策協議会と連携して、平塚市環境共生型企业懇話会の参加企業延べ数を増やす方策は考えていないのか。

◇事務局

平塚市環境共生型企业懇話会の主管課は産業振興課である。産業振興課も会員企業にアンケートを取り、なるべく多くの会員企業が参加するイベント、講座を実施しているが、参加企業が増えておらず、打開策が見つからないのが現状である。平塚地区環境対策協議会との連携が可能か否かは分からないが、いただいた意見や何かしら打開策を検討してほしい旨は、担当課に伝える。

○委員

平塚地区環境対策協議会は、協議会としても会員事業者向けの講習会などの活動を実施しているはずなので、タイアップなどをすれば、もう少し平塚市環境共生型企业懇話会の参加企業数も増えると思う。

◇事務局

平塚地区環境対策協議会と平塚市環境共生型企业懇話会はそれぞれ設立の経緯や母体が違うが、2つの団体の活動状況を確認し、今後2つの団体が上手く連携できるか調べる。

○委員

自分が勤めている企業は、平塚地区環境対策協議会、平塚市環境共生型企业懇話会共に会員企業になっている。平塚市環境共生型企业懇話会の参加企業数に数値目標が設定され

ているとは知らなかった。各企業が平塚市環境共生型企业懇話会に登録する人数は1人ずつであるが、登録された1人が活動日に他の用事ができてしまうと、どうしても平塚市環境共生型企业懇話会の活動は欠席となってしまふ。会員企業として平塚市環境共生型企业懇話会を盛り立てようとするのであれば、各企業から2、3人登録し、そのうち誰かが必ず出席するようすれば、活動に参加する企業も増えると思う。次回開催される平塚市環境共生型企业懇話会の会議でこの話はしたいと思う。

平塚市環境共生型企业懇話会と平塚地区環境対策協議会の活動やその成り立ちは違っており、平塚市で関係している部署も違っている。平塚市環境共生型企业懇話会は、企業としてISO14001の認証を受けることを目的に、大企業が中小企業をサポートするために設立されている。平塚地区環境対策協議会は、水辺の環境保全や廃棄物を削減するために設立されているため、2つの会が一緒にタイアップするというのは難しいと思う。ただ、ほとんどの平塚市内の製造業者は両方の協議会に加入しているため、相互にコンタクトすることはできると思う。

◇事務局

平成28年度までの平塚市環境基本計画では、平塚市環境共生型企业懇話会の活動に参加した企業の延べ数を目標値としていたが、参加企業の延べ数を目標値とすることが適しているかどうかを含めて、平成29年度以降に検討していきたい。

○委員

資料3の25ページの「耕作放棄地面積」の実績値だが、年度の比較をするのであれば、同じデータの取り方をしないと、分かり難くなってしまふ。同じデータを取る方策はないのか。

◇事務局

「耕作放棄地面積」については、平成27年度までは農家に改善指導した後の実績値が記載されており、平成28年度は改善指導する前の実績値が記載されているため、平成27年度と平成28年度の実績値が大きく離れてしまっている。担当課の農業委員会に確認したが、平成28年度は既に終了しているため、指導後の数値が取れないとのことであった。

○委員

そのような事情があるのであれば、評価の説明に平成27年度と平成28年度のデータの取り方の違いに関する記載がないと、平成27年度から平成28年度で耕作放棄地が倍増しているのはなぜかと誰が見ても疑問に思うので、その理由を記載した方が良いと思う。

◇事務局

「耕作放棄地面積」の評価の説明に平成27年度と平成28年度のデータの取り方の違いについて、記載するようにする。

○委員

環境ファンクラブについて、資料4の施策の項目「市民活動や企業の取組に対する支援」の具体的な取組内容は「○」だが、重点施策の目標は「×」となっている。資料3の12ページの「環境ファンクラブの会員数」の目標値は年度ごとに着実に増えている。一方で実績値を確認すると、平成28年度はむしろ数値が落ちてしまっている。その評価の説明が非常に曖昧になっていると思う。1団体の解散に伴い会員数が減少したと記載されているが、この記載だと1団体の解散に伴って、会員数が4人減少したように考えられる。平

成28年度に加入した人数と退会した人数をそれぞれ記載して、差し引きで、結果的に減少したと記載するべきではないのか。そのように記載すれば、環境ファンクラブの活動は活発に行われ、会員の加入数は伸びているけれど、元々あった団体の解散に伴って、結果的に101になったという記載であれば、努力をした結果として、平成28年度の施策の項目の評価を「○」、具体的取組の評価も「○」となっているのも良いかと思う。環境ファンクラブの会員数の目標値は人数なのに、その評価の説明は1団体解散としか書いてないのはおかしいと思う。

◇事務局

確かに平成28年度で加入した会員数と減少した会員数があり、その記載がなく分かり難かった。平成28年度に加入した人数は6人、退会した人数は10人であり、差し引き4人のマイナスとなっている。

○委員

環境ファンクラブに加入している団体は1人とカウントするのではなく、団体に加入し会員が4人であれば4人、6人であれば6人と環境ファンクラブの会員数にカウントするのか。

◇事務局

団体会員として登録されている団体数と個人で登録している人数を併せて環境ファンクラブの会員数としている。

○委員

環境ファンクラブの会員数は、1団体を1人としてカウントしているのか、それとも構成員が6人であれば、6人でカウントするのか、どちらなのか。

◇事務局

1団体を1人としてカウントしている。1つの団体の中にどれだけの人が加入しているかは、実態を把握していない。登録している団体を団体会員、個人で登録している人を個人会員として、それぞれ名簿を作っている。

○委員

そうであれば、環境ファンクラブの会員数の評価の説明として、1団体の解散に伴って大量に登録会員数が減ったわけではないので、会員数が105人から101人となったというのは、説明になっていないと思う。

◇事務局

平成28年度に環境ファンクラブを退会した団体は1団体であるが、その団体に加入している個人もいて、その個人も環境ファンクラブを辞めてしまっている。団体会員、個人会員として、両方で加入している実状もある。

○委員

環境ファンクラブは今後の施策の目玉となると思うので、しっかり施策の評価の説明をしてほしい。

◇事務局

昨年度の審議会においても、環境ファンクラブの会員数の目標値に個人会員と団体会員が一緒に入ってしまったっており、分かり難いという指摘があった。平成29年度からは団体数のみを目標値としており、その増加を目指していく。

○委員

環境ファンクラブの会員数の目標数値の設定方法に疑問がある。自分は環境ファンクラブ以外の環境団体にも加入しているが、現在、神奈川県内の様々な環境団体の会員数は、横ばいがないし、下降傾向にある。その理由として、年金を受給できる年齢が高くなり、働く年数が伸びることにより、環境団体の活動に参加できる年齢層が狭まっている。実際、会員数が100人以上いる環境団体は神奈川県の中でも5～6団体くらいしかない。環境ファンクラブの会員数の目標値設定について、一度も行政側から相談を受けたことは無かった。一方的に決められるのは果たして良いのかどうか疑問である。平成29年度からは環境ファンクラブの団体数の増加を目標値にすることだが、行政と市民活動団体との協働が上手くできていないと思うので、これから検討が必要になる。

○委員

環境ファンクラブの会員数の目標値は、平成25年度に4年間分の目標値を決めているのか、それとも毎年度決めているのか。

◇事務局

平成25年度の前に4年間の計画を定めている。

○委員

毎年度、環境ファンクラブの会員数の目標値が達成出ていないのにその対策をしていないのであれば、問題だと思う。

◇事務局

環境ファンクラブの会員数の対策として、様々な機会をとらえてPR活動などを行っているが、結果が出ていないのが実状である。

○委員

結果が出ていないのであれば、毎年度対策を見直す必要があるのではないか。

○委員

平塚市環境基本計画(改訂版)策定当初は、環境ファンクラブの会員数は目標値どおりに実績が伸びており、そのまま順調に伸びていけば、目標を達成することはできていた。ただ、年度を経て、各団体の会員数は毎年度1、2人しか伸びていないので、目標値を達成することは難しくなった。環境ファンクラブの会員の目標数値の設定が間違っていると思う。目標数値の変更について、5年前くらいに行政に聞いた際には、もう既に決まったことで、変更できないという返答であった。

○会長

PDC Aサイクルで毎年度計画を見直してくことになっているので、目標値を変えていくことはできるのでないか。

◇事務局

目標値を変えることに合理的な理由があれば、変えていくことはできる。環境ファンクラブの目標値については、上位計画である総合計画に平成28年度までに200人を指すと規定されていることから、環境基本計画も総合計画に目標数値を併せている。環境ファンクラブの会員数は、総合計画との関係で見直しができなかった実状がある。

○委員

自分が所属している環境団体は、団体会員として登録しており、そのうち数人が個人会員としても登録している。会員数が60人程度いるので、その全てが個人会員に登録すれ

ば、簡単に目標値を達成することができる。このように数字上のマジックができてしまう。同様に、環境ファンクラブに登録している団体は約30団体あるが、その団体に所属している人が環境ファンクラブの個人会員に登録すれば、環境ファンクラブの会員数の目標値は簡単に達成できる。

◇事務局

平成28年度までの環境ファンクラブの会員数の目標値は、団体会員と個人会員を一緒にカウントしているため、目標値としてはあまり適切ではないといえる。したがって、平成29年度からは環境ファンクラブに登録している団体会員のみを目標値とし、団体会員の目標数値について進捗管理をする。

○委員

地球温暖化対策について、省エネや電力の削減の目標を設定し、行政が取り組むことは当然だと思う。新エネルギーである太陽光エネルギー関連の施策も大事だと思うが、日常生活の中で省エネ行動を行うことが大切であることが様々な場面で言われている。電力の削減についても、電力使用量の増加に伴い火力発電も増加している。二酸化炭素の削減を大きな枠組みの中で行わなければ、地球温暖化対策はできないのではないのかと思う。資料3の42ページの「ひらつかCO2CO2プラン」に取り組んだ人数の実績値を確認すると、平成28年度の目標値は達成しているが、PDCAサイクルの観点から、ひらつかCO2CO2プランに取り組んだ人数の確認方法を見直し、申込後の状況も確認し、申込者がどの様に地球温暖化対策に努力したかをチェックしていく必要があると思う。その様な省エネや節電に関する施策を新たな年度から実施していくことが大切だと思う。

◇事務局

ひらつかCO2CO2プランもそうだが、家庭での省エネ対策を今後どの様に進めていくかも大切となる。家庭での電力使用量については、大きく増加しており、二酸化炭素の排出量も大きく増加してしまっている。本市としても、平成29年度から新規事業として夏場の家庭でのエアコン使用量を削減する「ひらつかクールシェア」を始めるなど、様々な地球温暖化対策の施策を行い、家庭における省エネルギーを進めていきたい。

ひらつかCO2CO2プランは、平成28年度は前年度に比べて取り組んで貰った月がどれ程二酸化炭素の排出削減ができたかを確認する様式となっている。平成29年度から、「エコ・クッキングコンテスト」を始め、行政から家庭で実践できる地球温暖化対策について伝えるだけでなく、市民の方から家庭で実践できる地球温暖化対策のアイデアを募集し、そのアイデアをその他の市民の方々に還元する施策を行う予定である。

○委員

ひらつかCO2CO2プランは、昨年度まで平塚市ごみ減量化推進委員会や平塚市美化推進委員会などを通して行っており、前年度の8月の電力使用量と現年度の電力使用量を比べ、電力使用量の削減量を報告していた。平成29年度からひらつかCO2CO2プランではなく、エコ・クッキングコンテストという料理の省エネ方法や無駄がでない食材の活用方法を募集する施策を始めている。

○委員

過年度より行ってきた、良い取組であるひらつかCO2CO2プランは、平成29年度で終了してしまうのか。

◇事務局

ひらつかCO2CO2プランは、終了するのではない。小中学生については引き続き案内チラシを配布し取組をしてもらう。平成29年度からは、沢山の案内チラシを市内の各家庭に配布し、取組の報告を受けることは止めることにした。市が省エネの方策について、市民の方々に投げかけるだけではなく、市民の方々から省エネの方策のアイデアを募集し、それを他の市民の方々に還元する施策を展開していきたい。

ひらつかCO2CO2プラン自体は、実施方法を変更していくことで検討している。日常生活の中で地球温暖化対策をチラシにまとめ、市民に配付することで、日常生活で地球温暖化対策を行う契機としてもらう予定である。平成28年度までは、一般家庭から報告書を市に提出してもらっていたが、一般家庭から報告を受けて取まとめをするようなことは今年度からはしない予定である。

○委員

資料3について、重点施策の目標が「×」となっているのに、具体的取組内容が「○」になっている理由が理解できない。同様に、「新エネルギーの導入促進」の重点施策の目標は平成26年度で終了し、「―」となっているのに、平成28年度の具体的な取組内容が「○」となっているのは、違和感を覚える。平成28年度の具体的な取組内容の評価は「―」となるのではないのか。

◇事務局

「新エネルギーの導入促進」の重点施策の目標については、一般住宅の太陽光パネル導入の補助件数を目標値としていたが、平成26年度で一般住宅の太陽光パネル導入の補助制度は終了しているため、「―」という評価をしている。具体的な取組内容については、新エネルギーに関する調査検討の実施や新エネルギーに関する普及啓発などの取組であり、実施ができたということで「○」としている。「新エネルギーの導入促進」の平成28年度の施策の項目の評価としては、重点施策の目標に関する施策は終了し、具体的な取組内容の施策は計画どおり実施できたため、目標達成とした。

○委員

施策の項目の評価説明に重点施策の目標は充足したため、施策の項目の評価は「○」にしているという書き方が必要だと思う。平成26年度で重点施策の目標に関する施策が終了しているに、施策の項目の評価が目標達成となっているのが、施策の項目の評価説明を読んでも分かり難いように思える。重点施策の目標に関する施策の事業が終了していることを施策の項目の評価説明に記載する必要があると思う。

◇事務局

「新エネルギーの導入促進」については、書き方を工夫する。重点施策の目標が「×」で重点施策の具体的な取組が「○」となっているように、評価がリンクしていないと分かり難くなっている。環境ファンクラブの会員数の増加を目指すことも個別の事業ではあるが、環境基本計画の構想では、重点施策の具体的な取組を進めることにより、おのずと重点施策の目標が達成できると計画していた。「市民活動や企業の取組に対する支援」は、具体的な取組内容は全て「○」だったが、重点施策の目標の環境ファンクラブの会員数の増加に結びつかなかった。そのよう課題はあるが、施策の項目として「市民活動や企業の取組に対する支援」というのがあり、資料4では、施策の項目全体としてどうであったかという評価をしている。「市民活動や企業の取組に対する支援」については、施策の項目の評

価は目標未達成であり、施策の項目全体としての評価をしている。

ご指摘のとおり、重点施策の目標が「×」で具体的な取組内容が「○」で結果的に施策の項目の評価が記載されているだけでは分かり難いので、先ほど資料3と4の整合という議論もあったので、最終的に進捗状況報告書として公表する際には、「○、×」の表現を含めて、分かり易い報告書になる様に見直していきたい。環境基本計画の実施状況報告については、説明側も説明し難い内容になっているため、見る側も分かり難いと思う。環境基本計画の実施状況報告書の記載方法を再度検討していきたい。

○委員

環境ファンクラブの立場としては、会員数の目標は達成していないが、環境ファンクラブの年間計画の活動はすべて実施できている。そのことを考慮せず、環境ファンクラブの会員数の目標値の未達成の状況をとらえて、環境ファンクラブ全体の評価とされては困る。

◇事務局

環境ファンクラブの会員数は、平塚市環境基本計画(改訂版)の段階で目標数値を上げており、団体会員や個人会員が増えないという問題は、従前の審議会でも問題となっていたが、総合計画との関係で目標値を変更できないという事情もあった。平塚市環境基本計画(改訂版)の数値目標の設定の仕方に問題があったということは認識している。平成28年度は既に終わってしまっている事業なので、そのことを含めて今回の進捗状況の報告について分かり易く表現していきたいと思う。環境基本計画の実施状況の報告書としてのまとめ方をもう一度考え直していきたい。

○会長

審議会としては、平成29年度以降の環境本計画の評価方法を検討していくことが主な仕事だと思う。そのことについて、次回以降検討していきたい。

時間となったので、議事を終了し、進行を事務局にお返しする。

5 その他

◇事務局

第2回環境審議会は11月上旬に開催する予定である。その1ヶ月前頃には郵送等でお知らせをする予定である。

○委員

もう少し早めに通知を出すことはできないのか。

◇事務局

第2回環境審議会について、早めに通知が出せるように努力する。日程が決まり次第、早急に連絡をする。

本日の追加資料として、ひらつかクールチョイス(クールシェア、ライトダウン、エコ・クッキング)、みどりのカーテンコンテスト、環境フェアのチラシを配付しているので、後程確認してほしい。

6 閉会

以上